

# 美術

美術科では、生徒が強く表したいことを心の中に思い描きながら、造形的に表現できるようにするなど「主題を生み出す力」を育成することが大切です。そのため、各内容における指導のねらいを十分に検討し、表現したいことを造形的に表現できる適切な題材を設定することが大切です。

## 美術科の授業づくりのポイント

- 主題を生み出し豊かに発想し構想を練る
- 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導については相互に関連を図る

## □ 主題を生み出し豊かに発想し構想を練る

「主題を生み出す」とは、目的や条件などを基に「自分は何を表したいのか、何をつくりたいのか、どういう思いで表現しようとしているのか」など、強く表したいことを心の中に思い描くことであり、独創的で個性豊かな発想や構想をする際に基盤となるもので、小学校における「つくり、つくりかえ、つくる」学習過程を踏まえて指導することが大切です。

### 主題を生み出すための授業計画の視点

#### <視点1>

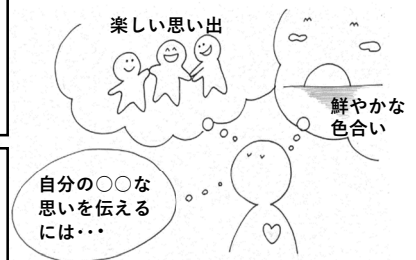
生徒の中には、最初の段階で主題を生み出し、構想に向かうことができる生徒や、材料体験やアイデアスケッチなどを重ねることによって、主題が生み出せるようになる生徒がいることを踏まえます。

#### <視点2>

作品などを鑑賞することによって主題を見つけ出せることもあることから、必ずしも主題を生み出してから構想を練るという順序性ばかりではないことに留意します。

#### <視点3>

生徒の個性を踏まえて、一人一人が主題を生み出していく課程を重視した指導の工夫を大切にします。



## □ 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導については相互に関連を図る

表現と鑑賞の指導の関連を図る際には、鑑賞の学習において、単に表現のための参考作品として、表面的に作品を見るのではなく、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸にそれぞれの資質・能力を高められるようにすることが大切です。

### 題材例「〇〇な手」

□ 授業展開 (全6時間)

#### 第1時：鑑賞

「鑑賞作品」を鑑賞する

- 高村光太郎「腕」
- 対話をしながら、作品に描かれている手の描写、作者の思いを読み取る。

#### 第2時：発想・構想

「〇〇な手」の構想を練る

- 作品から感じたことや考えたことを想起し、自分の表したい気持ちをまとめる。
- 表したい気持ちをもとに、作品の構想を練る。

#### 第3～5時：制作

「〇〇な手」を描く

- 材料や用具の特性を踏まえ、意図に応じてそれらを使い分けるなどして、自分の表現方法を追求しながら表現する。

#### 第6時：発表・鑑賞

他者の作品を鑑賞する

- 他者の作品を鑑賞し、美術作品の持つ価値や作者の意図について理解を深める。

#### <作者の意図や心情を考える>

生徒：「これはすごい力が入っているな」  
教師：「すごい力だって、どうして思ったの？」  
生徒：「この筋が浮き出ているから」

#### <作品の主題を考える>

制作では、そっくり描こうというところに力点が置かれそうになりそうですが、主題の部分の大事にして制作しようとする思いをもたせることが重要です。

#### <造形的なよさや美しさを感じ取る>

生徒には、自分の手を使って、自分の気持ち、内面を表現しようと試行錯誤させることが大切です。  
また、相互鑑賞時には、作者の意図という視点で鑑賞させることが重要です。

### 鑑賞



### 表現

子供の学び応援サイト  
教師向け詳細版  
(文部科学省 中学校美術  
活用できるリンク集より)



鑑賞したことが発想し構想を練るときに生かされ、また、発想や構想したことが鑑賞において見方や感じ方に関する学習に生かされるようにする。